

福祉心理学

科目コード

CC2149・
CC2103

単位数

履修方法

配当年次

担当教員

2

R or SR(講義)

1年以上

渡部 純夫

※本科目は、入学年度により科目コードが異なります。

2018年度以降入学者→CC2149

2017年度以前入学者→CC2103

科目の概要

■科目の内容

現代の日本社会は、まさに「ストレス社会」であるといえます。そのストレス社会を生き延びるのはそう簡単なことではありません。現に複雑・多様化する日本社会にあって、「心」の悩みを抱えている人が急速に増加してきていることがよい例でしょう。

福祉心理学は、社会的に弱い立場にいる人々の心の問題を受容し、理解しながらどのような関わりができるかを探る、「福祉」と「心理」の融合を目指した新しい学問です。実際的には、福祉の世界に「心理学」の知見を活用し、人々の「生活の質」(QOL)を向上させ、幸せの追求を援助するための方法について学んでいきます。

■到達目標

- 1) 一人一人の幸せ追求とQOL(生活の質)の向上に、「福祉心理学」がどのように貢献できるか説明できる。
- 2) 「心理学」の理論や手法を応用して、人々の福祉に対処するための方法を解説することができる。
- 3) 福祉現場において生じる問題及びその背景、心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。
- 4) 虐待についての基本的知識を身につける。

■教科書(「人格心理学」と共通)

小松紘・木村進編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』八千代出版、2009年

(最近の教科書変更時期) 2010年4月

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%+スクーリング評価 or 科目修了試験40%

■参考図書

- 佐藤泰正・中山哲志・桐原宏行編著『福祉心理学総説』田研出版、2011年
 今城周造編著『福祉の時代の心理学』ぎょうせい、2004年
 岡田明著『福祉心理学入門』学芸図書、1995年
 水島恵一編著『人間科学入門』有斐閣双書、1976年
 村上陽一郎著『生と死への眼差し』青土社、1993年
 藤森和美編『子どものトラウマと心のケア』誠信書房、1999年
 岩城宏之著『いじめの風景』朝日新聞社、1996年
 村瀬嘉代子著『子どもと大人の心の掛け橋』金剛出版、1995年
 佐藤泰正・山根律子編著『福祉心理学』学芸図書、1998年（改訂版、2005年）
 宮原和子・宮原英種著『福祉心理学を愉しむ』ナカニシヤ出版、2001年（第2版、2006年）
 白樫三四郎編著『現代心理学への招待』ミネルヴァ書房、1995年
 小林重雄監修『福祉臨床心理学』コレール社、2002年
 安藤治著『福祉心理学のこころみ』ミネルヴァ書房、2003年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

「福祉心理学」をどのように活用すれば、人々の幸福感が高まり、生活の質の向上につなげることが出来るのかを学びます。そのためには、「心理学」の考え方が必要になります。「心理学」を日常生活にどのように応用させればよいかを、自分なりの創造性を駆使して考えられるようにして下さい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	高齢者の生きがい	社会的生きがい、反社会的生きがい、思い出
2	知能	言語的知能、動作的知能
3	認知症の問題行動	徘徊、異食、暴力、性の逸脱
4	問題行動への対応	「福祉心理学」の視点と対応の仕方
5	高齢者の性	性と生・死との結びつき
6	高齢者の喪失体験	友人関係の喪失・経済的喪失・仕事の喪失
7	人生のまとめと死への準備	人生をふり振り返りまとめることの意義と死との向き合い方
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリング、ビデオ・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

高齢者の個々の幸せを考えていくために、心理学がどのように貢献できるか、具体例をあげながら講義をしていきます。その中で理論と実践がどう融合していくのかについても考えていきます。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況 (20%) + スクーリング試験 (80% : 持込不可)

■スクーリング事前学習 (学習時間の目安 : 5 ~ 10時間)

教科書を読み、人の一生と心理学がどのように結びつきを持つのかについてまとめてきてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	心理学の歴史から未来を考える ①	心の学の誕生とその歩み キーワード：行動主義、ゲシュタルト、精神分析	心理学の歴史を振り返ることにより、心理学がどのような発展を遂げてきたかを学ぶ。
2	心理学の歴史から未来を考える ②	現代の心理学から未来へ キーワード：環境・社会心理学、発達心理学、臨床心理学、倫理	現代の心理学とその課題を理解することにより、未来における心理学の可能性を考える。
3	人は現実世界をどう捉え、経験し、困難を克服するか①	「知る」ことの仕組みとその応用 キーワード：知覚、認知	「知る」という心理機能と行動の基本的メカニズムについて学び、日常生活への活用について考える。
4	人は現実世界をどう捉え、経験し、困難を克服するか②	「学び、覚える」ことの仕組みとその応用 キーワード：学習、条件づけ、行動主義、記憶	社会・文化的な側面の理解についての結びつきを踏まえ、「学習、記憶」という心理機能と行動のメカニズムについて学ぶ。
5	人は現実世界をどう捉え、経験し、困難を克服するか③	「考え行う」ことの仕組みとその応用 キーワード：知能、問題解決	「知能」とは何か、「問題を解決する」時の心の働きに着目し、「思考」のメカニズムについて学ぶ。
6	心の成り立ちと個性の形成を考える①	「行動」から見た心と個性 キーワード：動機づけ、感情、社会的認知	人間の「行動」を、心理学的に理解していくための諸理論について学ぶ。
7	心の成り立ちと個性の形成を考える②	「パーソナリティ」から見た心と個性 キーワード：パーソナリティ、自我・自己、自己実現	人を特徴づける「パーソナリティ」の様々な考え方について学ぶ。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
8	心の成り立ちと個性の形成を考える③	「人間性」から見た心と個性 キーワード：人間性心理学、感性、コミュニケーション、適応	「人間性心理学」の各理論と「コミュニケーション」の基礎概念についてを学ぶ。
9	ともに生きるための心理学の役割①	生活環境作りと心理学の役割 キーワード：父性原理・母性原理、ウェルビーイング、文化心理学、パーソナル・スペース	心理学的アプローチに基づいて、人と人、家族、社会・文化、環境との関連性を学び、心理学の役割を考える。
10	ともに生きるための心理学の役割②	人の健康と心理学の役割 キーワード：ストレス、予防	健康と「ストレス」の関連性について、様々な生活場面における問題と、心理的側面からの対処について考える。
11	ともに生きるための心理学の役割③	心理臨床の現場から キーワード：DSM-IV、ICD-10、アセスメント、心理療法、福祉と心理	単純に因果関係を特定できない「心の問題」を学び、「アセスメント」「心理療法」について考える。
12	「人生」を生きていくということ①	生涯発達 キーワード：変化、積み重ね、可塑性	「生涯発達心理学」という視点から「発達」についての考え方を学ぶ。
13	「人生」を生きていくということ②	障害をもって生きるということ キーワード：WHO、受容	「障害」とは何かを正確に理解する。「障害」の意味・援助のあり方を考える。
14	「人生」を生きていくということ③	思春期を生きる キーワード：同一性、自我、モラトリアム	「思春期の変化」を、「身体的変化」と「心理的变化」に分けて考える。また、その過程で、心理学がどのように貢献できるかを考察する。
15	「人生」を生きていくということ④	老年期を生きる キーワード：個人差、パーソナリティ、生きがい、死、幸福、福祉	加齢が及ぼす身体的・心理的变化を学び、心理学・社会福祉学の両面からのアプローチを考える。

■レポート課題

【2018年度以降入学者】

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	福祉心理学の枠組みのひとつである人間理解が、「心理学的視点」からはどのように行われるかについてまとめ、考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

※2018年度以降入学者は、1単位めが客観式、2単位めが論述式になります。

【2017年度以前入学者】

1 単位め	福祉心理学の枠組みのひとつである人間理解が、「心理学的視点」からはどのように行われるかについてまとめ、考察しなさい。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

※2017年度以前入学者は、1単位めが論述式、2単位めが客観式になります。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月よりレポート課題の2単位めが変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

「福祉心理学」では、深い人間理解が必要になります。人間は発達を通していろいろなものを身に付け、自己形成の課題に取り組んでいきます。課題に直面し不応を起すこともあります。そのような人々に対して援助を行うにあたっては、一般的な発達においての特徴と課題をしっかりと押さえておくことが必要になります。しかし、人間には個性や個人差があります。個としての見方やとらえ方も同時に必要になります。

この「福祉心理学」では、まず心理学の視点から人間理解を深めていくことを行います。その上で、何らかの援助を必要としている人に対して、どのような援助方法があるのか、ひとりひとりのニーズにどのように応えていけばよいかについて、理念と実践から考えていくことにしたいと思います。

「福祉心理学」を考えると、「社会福祉」と「心理学」の二面性の問題と向き合うこととなりますが、ここでは「心理学」を「福祉」にどう活用するかという観点から考えていただきたいと思います。

客観式課題 アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

論述式課題 アドバイス

- (1) テキスト『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』の第1部「心理学の歴史から未来を考える」から第3部「心の成り立ちと個性の形成を考える」までをよく読み、人間の心理的活動がどうなっているかを理解するための努力をしてください。

- (2) 次に、参考図書にあたり人間理解のための方法や視点の共通点と違いについてまとめ、考えを膨らませてください。あなた自身が今まで行ってきた理解の仕方についてもふりかえりを行ってください。
- (3) それらを、分析・考察しながら自分なりにまとめていくことにより、深い人間理解にもとづいたレポートができあがると思います。
- (4) 人間のすべての行動面に「心理学」は関わりをもちますから、日々の生活の中で気になる人間の行動をとりあげ、「心理学」とつないで学んでみるとよいと思います。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 人生のライフステージの課題を理解しているか
- 2) 福祉心理学の視点が理解されているか
- 3) テキスト以外の文献で発展的学習をしているか
- 4) 自分の考えをまとめる力があるか
- 5) 専門的内容をどれくらい理解しているか